

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県 小山市羽川524-1	電話:	0285-20-6211
自己評価作成日	平成 26年 6月 23日	評価結果市町村受理日	平成 26年 9月 1日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 26年 7月 28日	評価確定(合意)日	平成 26年 8月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- * 入居者の方々が安心して穏やかに生活できるような環境づくりに配慮しています。
- * 入居者の方々が四季折々の季節感を味わい、定期的に気分転換が図れるよう、近所の馴染みの場所にお花見や買い物、外食などに出かける機会を多く作っています。
- * ご家族との連絡を密に図り、信頼関係を築けるよう努めています。
- * 隣接した事業所として、デイサービスセンター・小規模多機能型施設があり、それぞれの利用者の方々の状態の変化やご家族のニーズに柔軟に対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の一角にデイサービスセンター・小規模多機能施設と隣接し、更にフレンド薬局や他法人の医療施設も敷地内にあることから地域住民の生活に関わっている。開設以来一貫して利用者の自立・安心、地域との共生に向け実践に取り組んでいる。運営推進会議の定期開催に努力し、新たに自治会にも加入して資源ごみ回収事業や町内の一斉清掃への参加など地域と一体感を図ると共に、利用者や地域の意見を運営に活かしながら、利用者のサービスの向上や地域住民の福祉に繋げようとしている。事業所は利用者・家族の意見を柔軟に取り入れて、リビングを改修したり、介護に家族の助言や協力を得たりして利用者同士の平穏で心地良い暮らしを大事に支援している。避難訓練は火災発生を想定して、隣接の三事業所合同で行い様々な課題解決に取り組もうとしている。重度化や終末期支援についても医療機関や他施設と密接に連携を取り、利用者・家族の安心に備えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同、事業所の理念を朝礼時に唱和しながら確認しています。確認にとどまることなく、利用者の方々の状態や家族様の状況に合わせて実践できるよう意識づけしています。	管理者は引き継ぎ時やミーティングなどでも理念に基づいて指導し、実践に向けて意識が途切れないように注意している。朝礼時には唱和し、職員の心に理念の定着を図り、利用者に向き合う時の共通の指針としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年度になり、正式に自治会に加入させていただき事業所としてなができるのか、新たに模索を始めました。自治会の行事には積極的に参加させていただいております。	自治会の資源ごみ回収事業や町内の一斉清掃など町内活動に参加することで交流を深めている。地元羽川や荒川地区の利用者が多く、利用者の知人などがボランティア(フラダンス、大正琴演奏)で訪問してくれるなど利用者と地域の交流を継続的に実施している。	自治会加入のこの機会を活かし、回覧板などで事業所から情報を発信するなどし、積極的に交流を深めるなど、地域に密着した社会資源である事業所の役割に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域住民の方々へむけて、近所にまたは身内に介護サービスが必要な状況が発生したときには、気軽に相談に来所していただけるよう啓蒙しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年の継続した課題となっておりますが、前年も6回の開催を実施できませんでした。前項にも記入しましたが、新年度になりようやく自治会に加入させていただいたのをいいきっかけに、地域の福祉資源としてご利用いただける意義などを説明しながら、役員の方々に会議への出席を依頼していきます。	利用者・家族代表・包括支援センター職員が出席し開催されたが目標達成計画にも掲げた所定回数の開催には至らなかった。自治会加入の機会に自治会会長や他方面からもメンバーを募り、運営推進会議の充実を図り提案や意見をサービスの向上に活かそうとしている。	メンバーの確保及び意識付けをしっかりと行うことで、定期開催することを期待します。更に自治会加入を機会に会議の活性化を図り、意見や提案を活かし、地域高齢者福祉や、サービスの向上に繋がる事に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	引き続き小山市認知症施策運営推進会議の常任委員の委嘱依頼を引き受け、定期的に行政への情報提供などしながら連絡を取り合っていきます。	管理者は、市担当窓口が変わる場合も事業所運営情報など報告や相談をし、連絡を密に取るようにしている。運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により毎年の勉強課題として、全職員がその行為の弊害を理解し、直接の利用者処遇につなげています。	身体拘束について社内研修を行い、職員はその弊害について良く理解している。退院した利用者の放尿癖解消に自室トイレなど様々な工夫も効果が得られず、家族の提案で病院と同じ「介護服」の着用を試みた結果、落ち着きを取戻し平穏で明るい表情になった。こまめなトイレ誘導など現在状況を観察している。	状態の固定化を避けると共に、利用者の症状が改善し、トイレでの自立排泄につなげる為にも、着用の記録を継続し、利用者・家族、職員が一体となって改善計画に取り組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項からのつづきになりますが、同様に内部研修の項目としてとりあげ、また毎月の職員会議の際にもケース会議を開き、自らの普段の援助を見つめ直しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象内容の外部研修などに積極的に参加し、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者本人の状況を事前によくアセスメント実施し、ご家族を含めできること・できないことを十分に説明を行い、サービス内容についてよくご理解いただいたうえで契約締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族の方々に出席を依頼し、日々の処遇や運営に関する意見や希望を発言していただく機会としています。	月々の清算時には家族の来所があり、利用者との面接や暮らしぶりなどの近況報告をし、同時に家族の意見や要望を聴く機会としている。利用者からの要望を取り入れリビングに間仕切り(アコーディオンカーテン)をし、テレビを2台にするなどの意見を取り入れて利用者の暮らしを支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議は、職員主導で議題を抽出した内容で実施し、参加率もほぼ100%となっています。実際の会議においても職員の側から積極的に意見が出る活発なものになっています。	職員の提案や意見は肯定的に受け入れ、まず「やってみよう」と、職員のやる気を引き出し、運営に反映させている。事業所のイベントや利用者の外出支援、勤務ローテーションや資格取得の為の有給休暇などにも職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期(6カ月)毎に実施している人事考課において、できる限り個別面談するなど、個人個人のモチベーションを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に応じた研修を会社独自で設け、また外部研修についても積極的に受講を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所ごとに地域住民の方々を招待したお祭りを開催していますが、お互い職員をヘルプとして参加させており、職員間の交流の重要な機会となり情報交換ができると職員も話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望されている方には、まず見学からお試しでの宿泊が可能であると勧めています。その間、ご本人の心配事をよく把握できるよう、丁寧な面談を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討している現状のニーズの把握や要望を直接の面談や自宅訪問等重ねながら、時間をかけて行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一敷地内で運営しているデイサービス・小規模多機能施設と連携を図り、現状のニーズに即したサービスを提供できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の一日の生活の流れのなかで、入居者の方ができること(料理・掃除など)を検討し、それらと一緒にってもらうことで、本人がマイペースに穏やかに生活できるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に面会時間は夜間を含めて自由として、ご家族が仕事を終えてからでもスムーズに面会にいらしていただくなど、来所の垣根はできるだけ低くして気軽に来所していただける雰囲気づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事には市内の昔馴染みの場所を選定するなど、いい意味で昔話を回想して振り返ったりする機会を多く作っています。	昔馴染みだった商店街や遊園地が様変わりしたことなどを話題に周辺での買い物や、ドライブで立ち寄るなどしている。地元の顔馴染みの理髪店の店主が、月一度の休日を利用して来訪してくれ地域の話題などで利用者の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を把握し、お互いがストレスにならないようリビングの座席の位置など配慮しています。トラブルには早い段階で介入させていただき、必要に応じてご家族の協力を仰いでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されサービスが終了された後も、秋祭りにご家族様を招待したり、年賀状のやりとりをさせていただきなど、関係をストレスのないレベルで継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望があった際には、時間をおかずに迅速に相談に乗る時間を作り、意見を肯定的に尊重するよう努めています。必要があれば家族も巻き込んで話し合い、本人が納得できるよう援助しています。	利用者の希望でリビングにアコーディオンカーテンで間仕切りして、気の合う者同士が心地よく過ごせるように改修している。職員は個々の利用者どじっくり向き合うことで、思いや意向を汲み取り環境や暮らし方を工夫し、安心して過ごせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の契約時に十分なアセスメントをするとともに、生活ぶりを家族の方々の面会時に報告しながら、本人の生活歴や嗜好・趣味などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の援助を通して、身体・精神両面の状況の変化に留意し、必要があれば定例会議のケース会議の議題にあげて、全職員で援助方法を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のケース会議において、状態に変化がある利用者の方々を中心に、全職員で援助の方向性を話し合っています。計画の見直しについては、家族の方にもよく説明をして同意を得ています。	月一度のケース会議でケアのあり方や介護計画について話し合いを行い、状態や変化の兆しがみられる利用者は現状に即した見直しをしている。帰宅願望や放尿癖など現状に即した介護計画に家族や医師など関係者の意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は状態をよく見守り・観察しながら、日々の変化を具体的に記入するよう心がけています。その内容は、朝夕2回の申し送り時に漏れのないよう報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整形内科や皮膚科などの受診について、本人・家族の状況によっては職員が対応したり、社内調剤薬局の薬剤師と連携を図り、安全な内服薬の処方・服用に配慮しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出レクの行き先には、利用者本人の希望を優先して、昔馴染みの公園で桜の花見をしたり、近所の食堂に外出に出かけたり、いい意味で昔を懐かしめたりする機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医がおり、健康面でのスムーズな支援ができる旨情報提供しています。ご本人の既往歴の内容によっては、それまでのかかりつけ医への受診を継続される場合もあり、家族の方々と十分相談するようにしています。	協力医による訪問診療があり利用者・家族の安心にも繋がることから協力医への変更をする利用者がほとんどであるが、既往歴などで「かかりつけ医」との関係継続が必要な利用者への支援もしている。診断結果は状況に応じて電話で連絡したり、面接時に家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム所属の看護師はいないため、必要に応じて隣接の事業所の看護師に、医療面での相談・助言を依頼しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院の医療相談室には挨拶回りを行っています。実際の入院の場合には、家族の方々と連絡を密に図り、退院後の受け入れがスムーズになるよう配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期の対応について、事業所の現状の対応を説明しています。具体的には協力医との連携を図りながら、特別養護老人ホームや病院へと転居されています。また今後のニーズの変化を想定して、内部研修により職員が終末期について学ぶ機会を作っています。	利用者・家族と終末期に向けて事業所で出来る事、出来ないことについて丁寧に説明し了承を得ている。重度化した場合には家族や協力医、かかりつけ医など医療機関と連携しながら支援するとしており、更に老健・特養とも連携している。管理者、職員は研修を行うなど対応力の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や年一回消防署の職員を招いての救急救命法の講習を開催し、職員が緊急時の実践的な対応を学び、有事の際に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の3事業所合同での火災避難訓練を実施しましたが、年2回の訓練は実施できませんでした。新年度になり、自治会に加入したこともあり、地域住民の方々には、まずは訓練の見学あたりから依頼していきたいと考えています。	グループホーム・小規模多機能・デイサービスセンターの三事業所合同で避難訓練が行われた。年2回の訓練回数や夜間を想定した避難訓練、地域の協力は必須課題である。更に自治会加入のこの機会に、広報活動を通して、住民の関心を集め災害時の相互協力関係の機運を築こうとしている。	三事業所は地域高齢者の福祉施設として利用者が多いことから、昼夜を問わず災害に備えた年2回の実践的な訓練を期待します。前年からの消防署の指摘である「火災報知音が隣接の施設にも聞こえるように」の実現に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの生活のペースを尊重しながら、一日の生活のスケジュールなど決め事はほとんどありません。リビングに居るのも自由ですが、日中は自然にテレビの前に集まり談笑している姿が日常となっています。スタッフはそれを適度な距離感で見守るようにしています。	日中に集うリビングを間仕切りで二つに分け、テレビを2台にするなど利用者同士も、それぞれを尊重し合えるような環境にも配慮している。同姓の場合は、誇りやプライバシーを傷つけないように本人・家族の同意を得て名前で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の性格を把握し、自らの思いを自然に表出できるようコミュニケーションを工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを最優先に、臨機応変な対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で選んで好みの衣類を着ていただいています。季節感に配慮したり、必要に応じて一部介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方によってですが、可能な限り食事の準備や後片付けを手伝ってもらっています。また、月一回は外食行事実施し、行き先もご利用者自身に要望を伺ってから決定しています。	食事前に発声練習などで口腔運動し、職員に見守られながら静かに食事を楽しんでいる。職員はカロリー計算された食材で、利用者の咀嚼力を考えて調理している。食後は利用者が生き生きとした様子で食器洗いを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取については入居者によっては摂取量をチェックして必要量を確保しています。栄養状態については、毎月の体重測定と3か月に一度の採血により変化の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定時の口腔ケアに加えて、希望される入居者には訪問歯科の診療を利用できる旨、お知らせしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中については全員トイレでの自然排泄ができるよう援助しています。他排泄チェック表を使用し、個別の排泄状況を知り、便秘などあれば本人・家族と相談して内服薬を処方してもらっています。	職員は利用者が自発的にトイレでの排泄の見守りや、排泄チェック表や習慣を念頭にタイミング良く声を掛けるなど失敗に繋がらない様に支援している。夜間は睡眠を妨げないようにリハビリパンツを使用したり声掛けにも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医の往診時に相談しながら食事内容など工夫しています。また咀嚼の状況に応じて、形態などにも配慮するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきの入浴サービスを提供し清潔保持に努めています。ADL状況に配慮して入浴形態を工夫したり、季節感のある入浴剤などを使用して、入浴時の話題作りとなっています。	利用者同士の交流も兼ねて、隣接している小規模多機能施設の浴室で毎回入浴剤を使い入浴している。利用者は外履きに履き替えて「行きます」と外出気分が出かけ職員の介助で入浴を楽しんでいる。利用者は帰宅時には「ただいま」と声をかけ楽しい日課になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で横になったりするのも自由ですが、入居者本人が気をつかってストレスにならないよう、その日の体調を注意深く見守り・観察しながら声掛けするように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内協力薬局と連携して、日々の服薬支援を実施しています。副作用など内服薬情報の理解とともに、誤薬という介護事故のリスクについても意識づけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的なニーズの例として、新聞購読や専門的なリハビリの利用など、地域の資源を活用しながら対応しています。今後も要望があった際には、よく相談しながら柔軟に対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	継続して実施している外出ドライブや外食の他、四季折々の季節感を味わい、生活を楽しむのあるものができるよう、利用者の方々の日々の会話のなかから希望を引き出すよう今後も努めていきます。	気候を見て事業所周辺の散歩を心掛けているが、利用者の脚力の低下など体調を気遣い、回数が少なくなっている。外出機会を増やすべく毎月買い物や、外食、ドライブなどの計画立案に工夫している。また四季折々の話題に出る、楽しみな梅や桜・ひまわり・菊祭りなどの見物に行くなどの支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクなどを実施し、可能な限りお金を使うという生活行為を継続しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の希望に積極的に対応しています。母の日や父の日など暦の上でのイベント時には頻度も多くなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの使用年数も経てきて、改修が必要な箇所は速やかに修理等対応しています。最近では、リビングスペースの全面的な床の張り替えを行いました。明るい雰囲気になったと、利用者の方々にも好評です。	南向きの窓は庇が暑さを和らげてくれ室温も心地よく保たれている。リビングは明るい基調の床に張替え、アコーディオンカーテンで間仕切りして、テレビを2台にするなど、利用者それぞれが居心地良く安心して寛げるように工夫している。トイレや廊下も掃除が行き届き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置など工夫するとともに、職員が上手く間を取り持ったりしながら、利用者同士円滑なコミュニケーションが図れるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ADL状況や認知症の周辺症状が重度な方は、居室の位置を職員が目の届きやすい場所にさせてもらっています。居室内の物品類については、特別な制限はせず馴染みの鏡台やご主人の写真など、本人が落ち着いて過ごせる空間となるよう配慮しています。	各部屋には備え付けの整理箆箆が用意されており、箆箆の上には、家族の写真や伴侶の遺影、孫の手紙などを飾ったり、自宅から持ってきた思い思いの小物を置くなど利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に夜間帯においては、必要に応じて人感センサーを活用しながら、未然に防げる事故を起こさないよう十分注意しています。		